



問1

コロナ対策の借入を行った企業へ、市独自の支援は考えているのか。

答弁 産業観光部長

商工会を通じ事業者の状況を把握しながら、必要に応じ関係機関へ伝えるとともに、事業者への各種制度の紹介や取次等、商工会と共に行っていくきたい。返済に対する市独自の直接的な支援は考えていない。国、県、雲南市の各種事業継続給付金を活用していただきたいと考えている。

問2

企業の人手不足への支援について市の考えはどうか。

答弁 産業観光部長

産業振興の観点から、製造業を中心に雇用の維持・拡大に向けた支援を行っている。雲南管内1市2町で組織する雲南雇用対策協議会において、新規学卒者の採用を目的とした企業見学バスツアーや学校と企業の就職情報交換会、企業ガイダンス、就職内定者合同セミナーを毎年開催している。中途採用についても、Uターン者を正社員として採用した事業者への助成金制度の設定、ハローワークと連携した合同就職相談会を実施している。事業者によって人材不足の考え方が違うので、要望に応じ効果的な支援を行って行きたい。

問3

除雪について、除雪ボランテアに対し、除雪機を増やし配置する計画はどうか。

答弁 建設部長

小型除雪機の貸与は、現在13団体がボランテア登録しており、内10団体に貸与している。今後は、貸与規程に沿う団体が希望があれば、計画的に貸与していきたい。

現段階では、一団体に一台の貸与を行う。それ以外については、他制度の補助金を活用していただきたい。今後、作業延長・作業範囲拡大等を考慮する必要がある段階で、検討する。

問4

貸与除雪機のメンテナンス費用は、市が対応するのか。

答弁 建設部長

貸与機械のメンテナンス費用は、その地域で負担していただくようにお願いしている。

問5

除雪ボランテアの制度の交付金の単価アップについて市の考えはどうか。除雪機械の貸与規程を改正し、高齢者等の支援に向けた除雪が出来るようにしたい。

答弁 建設部長

除雪ボランテアの交付金については、燃料代など実費相当分として交付している。人件費は、ボランテア活動というところで交付金には含んでいない。地域自主組織との意見交換で、メンテナンス経費や交付金算定の見直し要望をいただいている。ボランテア団体が持続可能となるように、地域の実態に即した支援は今後必要と考えている。

答弁 市長

この場でルール変更の即答はできないが、部長が答弁したとおり、地域ごとの特性に応じた支援の在り方も検討したい。

問6

市営住宅の家賃について、他町と同等か、または高いという声があるが、家賃の変更について市の考えはどうか。

答弁 建設部長

公営住宅法で定められた、公営住宅と定住促進住宅がある。公営住宅法で定められた住宅は、法律に従った家賃設定となっており、他町との違いはない。定住促進住宅は、家賃補助負担金を支出して家賃軽減をしている。定住施策として、木次東団地、加茂中団地、瑞光団地、下郡団地で子育て世帯へ家賃減免を行っている。現行の家賃変更は検討していない。

問7

子育て世帯、三世帯同居住宅の新築・リフォーム、空き家バンクの片付け費用補助の増額について市の考えはどうか。

答弁 政策企画部長

県が実施する「しまね長寿・子育て安心住宅リフォーム助成事業」に上乗せする形で「三世帯同居促進支援事業及び空き家改修事業」を実施している。空き家バンクの利用促進を図るため、空き家片付け事業も実施している。いずれも人口の社会増を実現する上で大変重要な施策であり、今年度の申請状況や効果などから補助要件の見直しなどを検証し、来年度予算に盛り込みたい。

問8

市の人口増加のため、出産祝い金の創設の考えはどうか。

答弁 政策企画部長

出産祝い金は、旧加茂町、旧三刀屋町、旧掛合町で実施していたことから、再考してはとの意見をいただいている。限られた財源で、継続性のある支援事業に重点を置き実施してきたところであり、国や他自治体の取組状況等を勘案し、いま一度、支援事業を検証したいと考えている。

裏面へ



WEBから
皆様のご意見、
お聞かせください!

<https://kajitani.site>

梶谷よしひら後援会事務所 〒699-1113 雲南市加茂町東谷 1313
発行責任者 梶谷佳平 電話・FAX 0854-49-6399



問11

児童生徒の安全（クマや交通事故防止）のため、通学用スクールバスに全ての子供を乗せる運用拡大について市の考えはどうか。

休日における保育支援として、現在、私立の保育施設1園と公立の保育施設各1園で実施している。来年度は、私立保育施設の在園児を対象に加えて休日保育の受け入れ拡充を図る予定にしている。

答弁 子ども政策局長

問10

保護者の休日勤務に対応した保育支援はどうか。

現在、第三子以降保育料無料化、三才児未満の第一子・第二子保育料の軽減等、県内他市に比べ低い保育料を設定。第二子以降の保育料無償化については、国、他自治体の状況を見て対応を考えたい。預かり時間の延長は、保護者ニーズを踏まえながら、更に子育て施策が充実するよう今後も検討を進めたい。

答弁 子ども政策局長

問9

保育園の2人目以降、ゼロ歳からの無料化と預かり時間の延長について市の考えはどうか。

登下校時のスクールバス利用は、安全確保には有効な手段と考えるが、一方で、歩く時間が短くなることで子供たちの体力低下が懸念される。学校と相談し、適切な在り方を検討する。

答弁 教育部長

答弁 市長

問12

高校生までの医療費無料化実施について市の考えはどうか。

医療費については、中学校3年生まで無料化を行っている。高校3年生までは現時点では考えていない。鳥取県は、平成28年度から高校3年生までの医療費助成を実施している。市として、県に対して、令和元年度から支援の拡充の要望を行っている。今後、より効果・要望の多い施策を検討して行きたい。

答弁 市民環境部長

議会動画はネットからでもご覧いただけます



新年あけまして おめでとうございます



今年は、雲南市議会議員となって二度目の正月を迎えることができました。これもひとえに、ご支援をいただいた皆様のおかげと感謝するところでございます。

昨年は、地域の皆様から沢山のご意見、ご要望を聴かせていただき、執行部へ伝えてまいりました。

新年に入り、皆様から新たな地域の困りごとや相談をうけたまわり、すぐさま執行部に打診したところ、早速対応をするとの回答を頂きました。今後も、皆様方のお困りごと等、お気軽にご相談ください。

ところで、一般的に十二支で2022年は壬寅（みずのえとら）と言われ、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」といった縁起のよさを表しているそうです。ちなみに私の結婚は1986年寅年でした。

今年、加茂町の念願であった“加茂交流センター”が新築され、まさに今年の干支にマッチしたスタートとなり、今後の住民サービスが拡大躍進することに期待しています。

交流センターの在り方については、市民のすぐ近くにある地域ごとの交流センターも重要ですが、一つの町に一つの交流センターとして活動している加茂交流センターは、人口規模や年代構成等の置かれている現状、そして縮小せざるを得ない雲南市財政も踏まえ持続可能な住民サービスが出来る雲南市を目指す、先験的スタイルとして注視・考察していく必要があると思います。

次の3月議会で提案される雲南市の当初予算には、石飛市長の“今後、雲南市をどのようにしたいという強い思い”が政策に盛り込まれることを期待したいと思います。

坂石佳年

